

令和5年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

(目 次)

第 1 部門	宮 伸穂	(手込製造工)	第 12 部門	高橋 二郎	(土石製品製造工)
第 2 部門	齋藤 守	(研削盤工)	第 13 部門	今野 敏範	(木製家具・建具製造工)
第 3 部門	大橋 芳幸	(治工具製造工)	第 14 部門	五十嵐 宏	(洋生菓子製造工)
第 4 部門	福井 博文	(金属加工機械組立工)	第 15 部門	田中 秀一	(理容師)
第 5 部門	宮原 浩一	(発電機・電動機組立工)	第 16 部門	黒川 修功	(日本料理調理人)
第 6 部門	尾崎 善三	(自動車部品機械加工工)	第 17 部門	小布施 孝幸	(室内仕上工)
第 7 部門	隄 信雄	(染物・仕上工)	第 18 部門	藤田 一	(広告美術工)
第 8 部門	須藤 陽子	(婦人・子供服仕立職)	第 19 部門	小林 正仁	(フラワーデザイナー)
第 9 部門	長谷川 裕樹	(建築大工)	第 20 部門	工藤 拓	(データサイエンティスト)
第 10 部門	長谷川 成幸	(かわらふき工)	第 21 部門	小泉 英雄	(開発技術者)
第 11 部門	千葉 正志	(造園師)	第 22 部門	齋藤 正夫	(ソフトウェア開発技術者)

※ 職業部門、氏名（敬称略）及び職種を記載。

1 部門	みや のぶほ	71歳	手込製造工 【鑑定 TEL : 019-622-3911】	《名簿番号4》
	宮 伸穂			岩手県推薦

○【伝統と新しさが無理のない形で融合】

現在では使われていない「古来からのたたら製鉄」（和銑を使用）のみを用いた鑄造法を研究し日本古来の技法を再現し、鉄瓶、湯釜等の製法を立証した。一度は失われた貴重な技術を復元し、数百年も永く残る錆びにくい鉄器の製造が可能となった。これらの研究により従来の南部鉄器の生産開発を発展させるなど業界に与えた影響力は大きい。様々な技術技法を駆使し新しい意匠を開発、製品の高品質化を実現し他の追随を許さない。

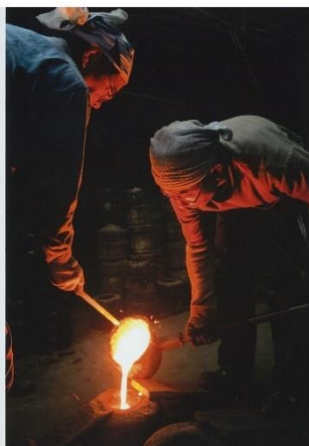
若手人材育成にも尽力し技術の他、デザイン、流通など幅広い指導を行っている。

○【伝統と現代】

家業の鉄器鑄造業は惣型といわれる特殊な鑄造技法をもちい、鐵瓶を中心に製造している。各地の伝統的工芸品産業と同じく、昔からの技術を守ることのほか、時代に即した物作りが不可欠となっている。意匠の工夫、技術の改善、素材の知識と吟味、市場のニーズ把握とやるべき事は多い。

ここ南部鉄器産地では、鉄素材の欠点である錆の克服が昔から産地のテーマであった。現在は表面のコーティングが主流であるが、本来の南部鉄瓶は「焼抜き」と呼ばれる伝統技法で防錆しており、更に明治以前は鉄素材そのものが錆びにくかった。たたら銑鉄とよばれるこの日本独特の素材は入手が困難で鑄造技術が難しいうえ、需要が少ないため長く返り見られる事がなかった。数十年、試みを重ね何とか再現にめどがついたのは、多くの専門家の協力によるもので深く感謝している。

本人近影



〔溶解 1,500度の溶けた鉄を鑄型に流し込む 〕



日本刀に欠かせぬ玉鋼作りでできる混ざり物がない和銑（日本古来の砂鉄を炭で精錬した地金）を使用して制作。

〔縦筋釜：第5回「日・中・韓芸術展」招待 上海芸術博物館〕

2 部門	さいとう まもる 齋藤 守	58歳	研削盤工 【いすゞ自動車株式会社 藤沢工場 TEL : 0466-45-2501】	《名簿番号10》
				神奈川県推薦

○【どんな高い要求でも創意工夫でやり遂げる努力家】

自動車製造業におけるエンジン・トランスミッション・アクスルの研究試験部品及び製造機械の補修部品等の研削加工に長年従事し、そこで培われたノウハウと「カン・コツ」を駆使し、高い精度が求められる自動車部品の長尺極細部品や特殊形状部品の工法・専用治具・研削条件等を考案し高難度の加工を実現させた。

また、「現場・現物・現実」の三現主義に重きをおいた現場実践教育も社内外で積極的に実施し、技能伝承者として後進の育成に貢献している。

○【できない理由より、どうすればできるかを考え挑戦する】

普通科高校の出身であるが、いすゞ自動車の訓練校で機械加工を学ぶなかで、「ものづくり」の楽しさを知った。

訓練校修了後、研削加工の仕事に就いてからは数多くの研究試験部品に携わった。未経験で要求精度の高い加工であっても、経験豊富で熟練した先輩から体得した勘所を基に、試行錯誤を重ね悩みながらも真摯に取り組み続け、苦労が実を結んだ時の達成感は忘れられない。

仕事は「もの」をつくるだけでなく“「人」とのつながりがあって成り立つ”という信念のもと、コミュニケーションを大切にし、後進の育成を行っている。

会社の同僚、そして家族のつながりに支えられて今の自分があるという感謝の気持ちを胸に、今後も機械加工を通して社会貢献ができるよう頑張りたいと考えている。

本人近影



〔球面部品測定作業〕



〔自動車の研究試験部品-長尺極細/特殊形状/球面〕

3 部門	おおはし よしゆき 大橋 芳幸	56歳	治工具製造工 【株式会社アイシン 広報部 TEL：0566-24-8232】	《名簿番号20》
				愛知県推薦

○【試作品の特級依頼に対応できる第一人者】

自動車部品の試作品製作に長年従事し、工程設計から治具・刃具設計、プログラム、段取り、加工まで全ての工程知識と技能を有する治工具製作技能に卓越している。その技能を生かし、基本技能の習得と高度技能育成の場として『治具工房』を開設し、治工具作りを通して、若手技能者へ基礎技能を伝承するなど、後進の指導育成に貢献している。

社内の技能士育成に留まらず、地域の子どもたちへものづくりを通して、未来の技能者育成や技能伝承の機会づくりに尽力している。

○【お客様にできないと言わない！期待に応える技能者を目指して】

子供の頃から“もの”を作ることが好きで、現在の会社に入社。認定職業訓練校で機械加工を学び、いかに速く作るかを訓練生同士で競い合い、ものづくりは作り方で品質や時間が大きく変わることを知った。配属後は、レーシングカー部品などの高精度な製品依頼に対し自ら工程を決め、治具や刃具を製作する腕を磨き、短納期・高品質な製品依頼にも「できない！」と断ることなく、要求に合わせた治工具の工夫や、要求以上の品質に向けた改善提案を即座に行うことで、お客様の期待に答えてきた。

また、治具工房を立上げ後進の育成にも力を注ぎ、自ら治工具を考え作る“人財育成”をしている。技能グランプリで金メダルを獲得するなど、高度な技能者の輩出に寄与した。

本人近影



〔製作した治工具の使い方の指導〕



〔シャフトのR加工用位置決め治具〕

4 部門	ふくい ひろふみ	56歳	金属加工機械組立工	《名簿番号29》
	福井 博文		【株式会社デンソー 広報渉外部 TEL : 0566-55-9752】	愛知県推薦

○【生産設備の組立て調整に精通したプロフェッショナル】

技能者として卓越した技能を習熟させ創意工夫を持ち自動車産業の発展を支える生産設備製作の開発に携わり自動車部品の新たな加工・組立て工法を具現化して高信頼性を保証する自動車部品の生産に貢献した。

また技能五輪全国大会（機械組立て職種）で金メダルを獲得した経験を活かし、社内だけでなく国内の技能者育成として技能五輪・技能グランプリへの積極的な支援も行い国内技能者のレベルアップに貢献してきた。現在も技能者育成のために必要な知識を習得し若手技能者の指導に力を注いでいる。

○【心技体を磨き、常に新たな事へ挑戦して自身の成長に繋げる】

入社して技能五輪選手に憧れ社内選考を受け五輪生として技能の基礎を学んだ。生産設備を製作する部署に配属され、五輪訓練で学んだ「モノづくりへの拘り」を持ち、 μ mレベルの組立てに従事した。部品の特性、環境から受ける特性等に対応した組立て法を習得する等の覚える事が多くあったが、経験できる喜びが力となり技能の奥深さを知ると共に腕を磨き上げた。

また、技能五輪・技能グランプリの支援を通じ、各企業との交流を深め時代のニーズに合ったモノづくり人材の形を具現化して、技能者の地位向上に貢献してきた。

現在は自身が習得した生産設備製作の技能・知識を活して設備品質の向上に力を注ぐと共に、将来を担う技能者の指導をしている。

本人近影



〔生産設備の加工条件調整作業〕



〔設備教材を使った若手技能者の育成〕

5 部門	みやはら ひろかず	60歳	発電機・電動機組立工	《名簿番号41》
	宮原 浩一		【愛知製鋼 株式会社 TEL : 052-604-0611】	愛知県推薦

○【発電機・電動機組立に精通した設備保全のプロフェッショナル】

電気機械組立工の発電機・電動機組立の技能に卓越している。発電機・電動機組立の技能によって、負荷診断器（可搬型、常時監視装置負荷診断器）を設計製作し、今まで困難であった鍛造生産設備の保全方法の標準化に貢献したものである。後進の指導としては、電気機器組立て（配電盤・制御盤組立て）作業の技能検定委員を務め、5名の技能士を育成。

また、知識や経験から学んだノウハウを伝承しながら育成し、業務効率改善とコミュニケーションの活性化を図っている。

○【本気でやればなんでもできる】

設備をセンシングして異常及び劣化を時系列で診断する方策がないか思案中に、他所で旋盤機のチップかけを負荷診断（電力診断）によって実施していることを知り、負荷診断器を鍛造機へ応用した。

鍛造機は、劣化のスピードが早い為、設備異常や劣化の判別がしづらいが、異常モード判定表をつくり（時間軸と電力、挙動でモード分け）マトリックス化することで、異常の診断ができるようにした。

氏は、現地現物主義、「本気でやればなんでもできる」を座右の銘として日々後進の指導へあたっている。

本人近影



〔制御盤で製造課へ診断にて不具合箇所の説明〕



〔負荷診断器（電力診断器）の手作り〕

6 部門	おさき ぜんぞう 尾崎 善三	56歳	自動車部品機械加工工 【トヨタ車体株式会社 TEL : 0566-36-2121】	《名簿番号52》
				団体推薦

○【ハンドスキルと自動化スキルで機械加工工程を牽引】

入社以来、主に自動車部品のプレス金型製作における機械加工に従事し優れた能力を発揮し、長きに渡り職場を牽引してきた。汎用加工機で培ったノウハウ、カンコツを自動化に取り入れ、海外子会社にも展開し、指導力を発揮するなど大きな実績を上げている。更に精度向上、業務効率化を行いながら、業務改善を行っており、機械加工分野の会社の代表的な高技能者である。また、近年では技能五輪トレーナーも務めており、蓄積してきた技能と経験を後進に伝承する教育の仕事に熱心に取り組んでいる。

○【どうしたらできるのか？を常に考え実践】

入社8年目で工作機械の立上げを任されるようになり、15年目で初めて海外子会社の工作機械立上げを担当した。深夜に及ぶ動作確認や枕元に置いたメモにひらめいたアイデアを書くなど、苦労の末にやり切ったことが自信となり、身に着けた機械加工の技能を徹底的に自動化する事が楽しくなった。「できないことはない。どうしたらできるのか？」を常に考え、トライ&エラーを繰り返して、より効率の良い仕組みを構築するという能力が身についた。一方でハンドスキルという基本技能も大切にすべきという思いから、機械加工特級技能士を取得し、身に着けた技能をトレーナーとして後進に伝承する事に取り組んでいる。

今後は機械加工分野の更なる発展に寄与すべく、技能面からの提言も積極的に行っていきたい。

本人近影



〔汎用フライス盤で加工の原理の指導風景〕



〔自動化を考案した工作機械で加工中の金型〕

7 部門	つつみ のぶお 隄 信雄	68歳	染物・仕上工 【有限会社 隄 染工 meib TEL : 075-311-8603】	《名簿番号55》
				京都府推薦

○【京友禅引染の可能性を追求】

引染とは京友禅手描染の加工工程にあって最も重要な工程の一つであり、素材白生地のもっと広い範囲である地色を染める作業のことを指す。

氏の独自技術となる広巾の染技巧が評価され、着物だけにこだわらず多方面でその引染の技術を生かすことが、伝統的なものづくりに携わっている人材の今後の使命との信条で活動している。氏は特に広巾の無線ぼかしにおいては業界トップの技術を有している。指定された色彩・色相を瞬時に判断し染料の配合を決定し、作業にあたることができる。その速さとの確かな技術は他の職人の追従を許さない。

素材についても絹だけにこだわらず麻や綿にも反応染料で染める技術を修得し、その染めた生地を小物に縫製し自らがmeibというブランドを立ち上げて販売展開している。

○【和と洋の垣根を超えたものづくり】

子供のころから手伝っていた家業の引染を引き継ごうと思い、デザイン学校を卒業し、染色工房で3年間修業見習いした後、家業に入った。

当初は与えられた仕事をこなすことの繰り返しで辛いこともあったが、年数の経過とともに「もっとこうしたらいい染になるのでは」と思い、自分で生地を買いオリジナルのアイテムを手がけるようになった。

伝統工芸の本物の技を用いた着物づくりは勿論のこと、お客様が使いやすく、購入しやすい、親しみや温もりのある、敷居の低い伝統工芸も目指している。自ら会場に出向いて実演し、お客様が引染を体験することで、伝統工芸をより身近に感じると喜びの声をいただいている。

本人近影



〔多種類の刷毛を使い分け染め上げる〕



〔染め上げた生地を傘のデザインに応用し製作〕



8 部門	すどう ようこ 須藤 陽子	73歳	婦人・子供服仕立て職 【アトリエ SUDO TEL : 042-464-2474】	《名簿番号60》
				団体推薦

○【注文服仕立職人として】

オートクチュール仕立てによる縫製技術を活かし、着心地の良いデザイン・パターン・裁断・縫製・仕上げと全てをこなし、普段着からジャケット・コート等、高度な婦人服製造技能を有している。

第23回技能グランプリでは第1位厚生労働大臣賞を受賞、またコンクールにおいても厚生労働大臣賞を受賞。その高い技能を中央職業能力開発協会の検定委員を含め、ものづくり匠の技など後進の育成・指導に貢献している。

○【好きな事を仕事に出来た喜び】

戦後の物が無い時代、ほとんどの母親がそうしたように、私が着る洋服やセーター、着物は母の手作り。その影響で子供の頃から人形の服、自分の洋服やセーターを手作りし、ファッション雑誌を飽きることなく見ていた。中学、高校、洋裁学校と進学とともに服作りへの憧れは増していき、気が付けば服作りをなりわいとし、歳を取っても続けられる仕事に就けたことへ感謝と喜びを感じている。様々な人とのご縁で、技術・技能を勉強する機会を得る事が出来たお陰で、技能士としての高い意識を持ち仕事に臨んでいる。

これからも研鑽を続けながら確かな技術をお客様に提供し、服作りのプロを目指す若い人達に微力ながら技術・技能を伝承し、応援をしていきたい。

本人近影



〔手作業中 ウールジャケットの前端を止め付けている〕



〔2022技能コンクール厚生労働大臣賞受賞作品〕

9 部門	はせがわ ひろき	44歳	建築大工	《名簿番号66》
	長谷川 裕樹		【有限会社 池田技建 TEL : 03-3928-7840】	東京都推薦

○【積み重ねる技能技術】

建築大工として、伝統木造住宅から社寺建築まで幅広く手掛け、技能や知識を培い技能グランプリでは金賞を獲得する等、卓越した技能を有する。特に扇たる木を得意とし、正確無比な割り付け、軒反りの美しさに高い評価を得ている。

また、日々研鑽した規矩術に深く精通しており、その技能は数々の木造建築に発揮されている。技能講習会では、全国から難解な小屋組みの振れ隅木、振れたる木等の講師を依頼され、後進の指導育成に尽力し、他の模範となっている。

○【日々の自己研鑽で窮める志】

大工職人に憧れて工務店に弟子入りし、見習いとして修業を始める。伝統木造建築、社寺建築等の工事に携わり、大工仕事のやりがいや楽しさに触れていく。池田技建に入社後、規矩術の奥深さに感銘を受け、より一層大工仕事にのめり込んでいく。

大工職人の仕事は毎日が修行であり、道具の手入れ、材木の選定から製材、割り付けや継手及び仕口等の墨付け、刻み加工、道具の使いこなし、どれも初めは大変であった。親方や兄弟子等の仕事を見て習い、日々自己研鑽して行くうちに、技能や技術が身に付くことで、やりがいや楽しさに変わっていった。

長年培われてきた先人達の技法は、いくつもの誇りと魂で構築されており、私自身も後世に伝承していくことが使命であると考えている。

本人近影



〔虹梁若葉模様の彫刻の仕上げ彫り作業〕



〔観音堂、反り軒扇たる木〕

10部門	はせがわ しげゆき	63歳	かわらふき工	《名簿番号73》
	長谷川 成幸		【株式会社 長谷川 TEL：077-589-2322】	滋賀県推薦

○【技能の伝承と後進の育成】

文化財や社寺を中心に瓦葺きの実績を積み上げ、多くの文化財や社寺を手掛けた。瓦葺きの技能の中でも、特に社寺全体のバランスと華麗な曲線の美を出す技能が高く、その優れた感性で社寺建造物の保存・修復を手掛けている。土を使わない棧葺き工法をいち早く取り入れ屋根の軽量化に努め、棟積みでは土の替わりに南蛮漆喰を使用した施工を行い耐震性の向上普及に尽力した。

職業訓練校の講師・校長として、また文化財保護活動技術委員として、後進の指導育成に力を注いでいる。

○【未来につなげる伝統技術】

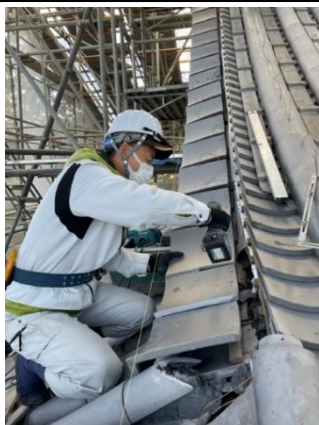
ゼネコンの現場監督を4年経験した後、心ならずも瓦工事の世界に入職。何も知らないまま奈良の工事店にて8年間学ばせていただいた。

当時奈良ではすでに原寸施工図を作成し、高度な瓦葺き施工がなされていた。現場監督時代に施工図面を描いていた経験が大変役立ち、工事の全体が見えるようになった。平成5年、地元に戻り会社を継いだ。平成7年の阪神大震災により瓦業界が大きく変わり、軽くて飛ばない、落ちない工事が要求された。

葺土を使わない工法は、奈良では早くから施工されており、弊社はその工法で施工していたおかげで、大変スムーズに棧葺き工法に移行することが出来、結果として、文化財や寺社の仕事も数多く施工させていただいた。

今後は職人不足の現在であるが、学んだ技術を一人でも多くの人に伝えていきたいと思う。

本人近影



〔文化財の掛瓦施工〕



〔信楽院・蒲生氏の菩提寺〕

11部門	ちば まさし	71歳	職種 造園師 【千葉造園 TEL：0229-28-2540】	《名簿番号84》
	千葉 正志			宮城県推薦

○【豊富な知識と石組み技術を駆使する実力者】

48年余にわたり造園一筋に精励し、その技術・技能は業界において高く評価されている。

特に石組み技術を得意とし、現在では希少な技法である「流れ石積み技法」を習得している稀有な存在であり、神社参道復旧工事及び小河川の改修事業でその高度な技術を発揮した。（一社）宮城県造園建設業協会副会長・理事を務め、技術講習会では講師となり、石組み技術や剪定技術等の実技指導を行い、造園業界の技術・技能の向上に多大な貢献を果たしている。

○【探求心と不断の努力】

一人親方として造園業を営む父の姿を見て庭づくりに興味を抱き、造園師を志した。これまで様々な庭園を視察し、研修会にも参加しながら自己の造園技能・技術の研鑽を重ねて不断の努力をした結果、造園技能者として世間に知られるようになり、今では施工まで2～3年程度待つていただくほど、多くの作庭依頼を受けるまでに成長することができた。

特に石組み技術に興味を持っていたが、「流れ石積み技法」は、実例が少ないため専門書で学習し実績を積んできた。小河川の改修事業に当たっては、河川の幅員、勾配、流量等に加えて、石材の数、形状、材質等を綿密に調査把握して、石材の向きと配列に意を用いて配置した。完成後、台風や大雨にも形状を変えることなく、現在も小河川としての趣を醸し出している。

本人近影



〔個人庭園の剪定作業風景〕



〔流れ石積み技法を用いた、小河川の改修事業〕

12部門	たかはし じろう	64歳	土石製品製造工	《名簿番号89》
	高橋 二郎		【有限会社 高橋石材 TEL：087-845-9349】	香川県推薦

○【確かな技術と創造性を併せもつ石工業界の匠】

「庵治石」の採掘から製作施工に長年従事し、一級石工技能士として卓越した技能、技術を有する。社寺仏閣石工事・建築石材加工・施工、庭園・環境石材・モニュメント製作等の幅広い分野で第一人者として活躍している。

また、石工業界発展のため、全国規模の技能競技大会への青年技能者の参加を奨励、若手技能者への指導・支援に尽力し、後継者の育成に努めるとともに、香川県の地場産業である最高級石材「庵治石」ブランドの維持・継承に大きく貢献している。

○【数百年先まで残るよう、思いを込めて未来に繋ぐ】

日本の三大石材産地の一つとして認知される庵治で育ち、祖父の代から続く石屋で、幼少期から石に囲まれながら生活していたため、必然的に先代の父親を兄弟で手伝うことになった。

石の加工は原石の状態から余分なところを削除していく作業で、削り過ぎてしまうと元に戻せない。石は硬く丈夫な素材ではあるが、反面、脆く重い性質を持つため、重量に合った加工でないと欠けたり壊れたりする。

作り上げたものが数百年先まで残り続けるものとなる事が1番の励みであり、人の思いを残すために石を刻んできた先人のように、これからも、未来に残すための努力を心掛けたい。

本人近影



〔研り作業〕



〔寺名碑の製作（約70cm×70cm×450cm）〕

13部門	こんの としのり 今野 敏範	72歳	木製家具・建具製造工 【有限会社 今野木工所 TEL : 018-832-7933】	《名簿番号92》
				秋田県推薦

○【奇をてらわず自然に空間となじむ独自のデザイン性】

長年木製家具・建具製作に従事し、特に戸や扉の製作において、樹種の異なる部材の高精度な連結や、光の反射や色の変化を生み出す部材の切り出しに卓越している。その繊細な技能と独自のデザイン性は全国建具展示会でも高く評価され、3度の大臣賞ほか多数の入賞歴を有する。

また、（一財）全国伝統建具技術保存会副会長として伝統建具の保存修繕や技能指導に尽力するほか、技能検定委員や技能競技大会の審査員、ものづくりマイスターとして職業能力開発や技能振興に大きく貢献をしている。

○【2代目として建具の世界へ】

高校を卒業して東京で4年間、家業が建具屋だったので帰郷して10年間、父の元で修業を重ねた。33歳で会社経営を始め、職人として県建具組合や全国建具組合の活動に参加するようになり、多くの仲間と出会い成長することができた。全国建具展示会では先輩方の作品から刺激を受け、様々な技法を学び出品意欲が湧いた。自分なりに技法を取り入れ、全国の職人と肩を並べたいという思いで製作に取り組んだ結果、入賞が望めるようになった。

伝統建具技術保存会では建具の修復・修繕等を学び、今もなお研鑽の日々である。今後も、現代の建物に合う建具製作と技術の研鑽を続け、次世代へ向け後継者を育成し、微力ながらこの文化を伝えていきたい。

本人近影



〔組子障子に取り付ける組子製作作業〕



〔第34回全国建具展示会 建設大臣賞受賞作品〕

14部門	いがらし ひろし	51歳	洋生菓子製造工	《名簿番号99》
	五十嵐 宏		【パティスリー ラ・ローズ・ジャポネ TEL : 03-5876-9759】	団体推薦

○【味覚と工芸菓子、味と技の二刀流】

国際コンクールのジュニア部門で準優勝し「ホテル西洋銀座」で頭角を現す。「クープ・デュ・モンド」（仏）に出場し、2回目で準優勝を果たす。その後、米国で開催されたコンクールで優勝し、その際、味覚部門で最高評価を得た事で、長年「味覚が弱点」と言われてきた我が国の評価を覆した。各地の講習会で講師を務め、後進に惜しみなく技術を伝えると共に「クープ・デュ・モンド」の日本チーム団長として、チームを2度の準優勝に導くなど、日本の洋菓子技術のレベルの向上に尽力している。

一流ホテルのホスピタリティと下町らしい親しみやすさを兼ね備えた接客も評判で、店舗が亀有香取神社境内にあることから、ケーキを目当てに立ち寄る参拝者が増え、地域貢献の一助となっている。

○【一菓入魂】

- ・実家が中華料理店を営んでおり、幼い時から調理関係の仕事に就く事を思い描いていた。
- ・就職してからは多くの良き先輩に恵まれ、何一つ迷うことなく今日に至ることができた。苦労した事は沢山あったが、その苦労こそがピンチに於ける自身の原動力となった。
- ・これからは諸先輩から頂いた知識や技能を惜しみなく後輩たちに繋いで行く事を使命として、さらに邁進して行きたい。

本人近影



〔モンブランの仕上げにマロンクリームを絞る様子〕



〔味覚審査で世界一を獲得したケーキ「ピクシー」（左）と得意の飴細工（工芸菓子）〕



15部門	たなか しゅういち 田中 秀一	72歳	理容師 【有限会社サントノーレ ヘア&メイクサントノーレ TEL：03-3915-9301】	《名簿番号104》
				東京都推薦

○【個性化を求める消費者ニーズに対し、ヘアデザインの「質感」を表現する技術と理論の確立に尽力】

氏は特にお客様の髪を持つ素材感・質感の個性を生かすマテリアルカット及びドライカットの技能は業界の第一人者である。近年、若い世代の髪型の主流は過去の硬い雰囲気ハードタッチから、毛先を遊ばせたナチュラル傾向へと変化しているが、氏のマテリアルカット技法及びドライカット技法は、こうした消費者ニーズに応えるものであり、業界を需要喚起して理容業の振興に資した功績は大きい。

全国理容生活衛生同業組合連合会中央講師に就任後は、全国に赴き多くの理容師に対して技術指導に尽力したほか、自店の従業員を全国理容競技大会で多数優勝させる成果を上げるなど後進の指導育成に大きく貢献している。

○【技術の本質を極めるには、基本を極めることである】

18歳の時、福岡県久留米市からへ上京して2年間東京のタイヤ工場で勤務。退社後に兄の勧めで理容師見習いとして住み込み、理容専門学校に入学し国家資格を取得。

仕事における私の座右の銘は以下3つ。

①【自分にウソをつかない】私達の職業は物が対象ではなく人(人間)が相手。お客様に喜んで頂く為に本物の感動を与えることで再来店に繋がる。自分にウソをつかないで素直に学ぶことが大切。

②【基本の大切さを知る】幅広い年代層のお客様のヘアを創るヘアアーティストを目指してきた。その為には技術の基本が一番大切で、基本が出来たら応用ではなく基本の繰り返し。そうすることで自信がつき、本物のプロを目指す。

③【心・技・体】私は生涯現役でいる為にも素直(心)・基本技術の追求(技)・健康な身体作り(体)を心掛けている。

本人近影



【マテリアルカット後の仕上げの作業風景】



【マテリアルカットにより毛髪の質感と繊細さが表現された作品】

16部門	くろかわ のぶかつ 黒川 修功	63歳	日本料理調理人 【株式会社 俵屋旅館 TEL : 075-211-5566】	《名簿番号115》
				一般推薦

○【老舗日本旅館で提供する唯一無二の食事】

日本を代表し世界的にも知られている老舗日本旅館「俵屋旅館」で過ごす時間の中で芸術的ともいえる「食事」を提供し、京の食材を含め京都の日常・行事・有職の伝統を組み込み、料亭のあり方とは違った日本独特の素晴らしさを表現している。朝食には和食のほか、海外の宿泊客用に卵料理も35年ほど提供している。

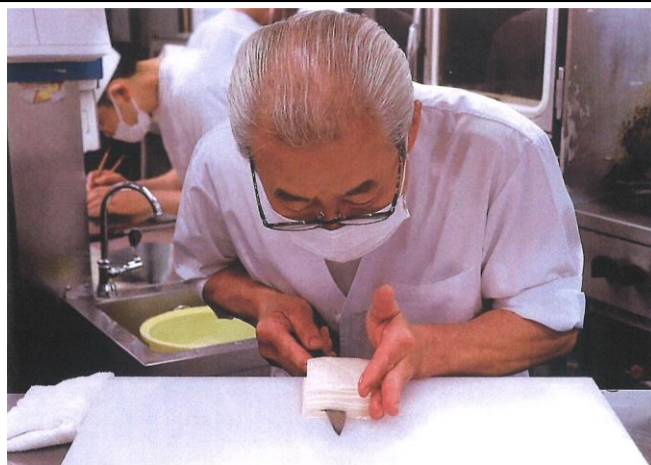
部屋係やコンシェルジュによる、旅宿客に提供するサービスの様々な要素と調和しながら宿泊客に満足感を与えており、とても難しい宿の料理の役割を見事に果たしている。

○【「京料理」の追求】

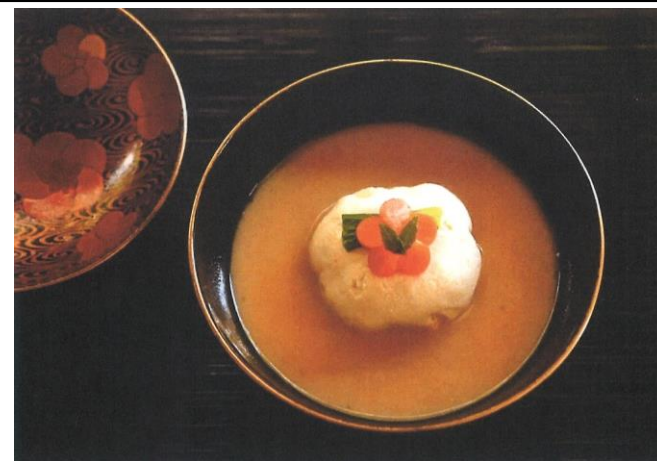
調理を生業とする親の姿を見て育ち、幼少期の頃から料理に携わってきた。俵屋旅館では、日本に息づく四季を感じる文化を活かして、「京料理」を追求している。何をもって「京料理」というのかを常に自分に問い続けながら、新しい食材を使い、それらの相性を見極めて京料理に新しさを吹き込んできた。

旅館の料理は料亭の料理と違い、華やかさだけではない。また、夕食と朝食のバランスも大切であることから、技術の習得には長い年月が必要で、若い人たちに教えていくことも自分の役割と考えている。自分の作ってきた料理を後進が学んでくれることによって、「京料理」を後世に伝えることになればと思い、日々研鑽している。

本人近影



〔京豆腐の薄へぎ切り〕



〔甘鯛の茶巾豆腐〕

17部門	おぶせ たかゆき	55歳	室内仕上工 【株式会社 岩野商会 TEL : 026-263-7000】	《名簿番号132》
	小布施 孝幸			長野県推薦

○【床仕上り工事のプロフェッショナル】

36年にわたり床仕上り工事作業に従事しており、プラスチック系床仕上り作業一級技能士、カーペット系床仕上り作業1級技能士を取得し、多くの現場を施工してきた。さらに、高品質の仕上がりと工期内施工、基本作業に忠実に取り組み、秀でた技能により技能グランプリ1位を受賞するなど、優れた実績を残している。

10年以上職業訓練指導員を務めるほか、ジェイシフ技術・技能伝承者、信州ものづくりマイスターとして洗練された技能を基軸に、熱意をもって後進への指導育成にあたっている。

○【仕事に対する思い】

- ・小学生の頃、自分の家の増築工事の内装の仕上がりを見て、とても綺麗になったと感動を覚えた。いざ、自分が就職するにあたり、その時のことを思い出してその仕事に携わりたいと思った。
- ・これまでの仕事で一番苦勞したことは、県外出張の現場において前工程が遅れたために工期が無く、加えて寒さの厳しい環境での施工であった。そんな中で、作業間の調整等を自ら行い、無事現場を治めることが出来た。
- ・材料や環境が変わっていく中でも、基本作業、技術向上と高品質の仕上がり、工期内の施工を心がけている。
- ・自分の経験した技能、現場管理等を若手に伝え、かつて自分が内装工事に興味を持ったような、熱意ある指導と技能の伝承に力を注いでいきたい。

本人近影



〔長尺シート貼り 圧着作業〕



〔カーペット施工 竣工〕

18部門	ふじた はじめ 藤田 一	60歳	広告美術工 【フジタ看板店 TEL : 054-641-5521】	《名簿番号133》
				静岡県推薦

○【スタジアムの壁から小さな看板まで、熟練の筆捌きで看板を描く】

広告美術工として屋外看板や横断幕などへの文字描画の技能に優れており、刷毛を滑らかかつダイナミックに動かしているが、字面の直線はまっすぐに、曲がりきれいな弧を描き、プログラムされた機械のような文字を大きく描画することができる。

また、全国競技大会の出場経験により選手育成にも携わっているが、さらなる技能向上を目指し自身も競技大会に毎年出場している。職業体験の講師として数多くの学校にも訪れ、生徒に広告美術への興味や関心を持つきっかけを与え、業界の発展に貢献している。

○【便利な時代になっても、心の隅に昭和の看板屋の心意気を忘れない】

この仕事を始めたきっかけは、看板製作・住宅塗装業の父の仕事を見て、楽しそうだという思いがあったからである。

手描き看板は、いつも平らな面だけではなく、波トタンやリシン吹き羽目等の描きにくい所や高所など不安定な足場上での作業においても、遠くから正確に見えることを考慮して描く必要がある。また、足場解体までの期限もあるため、手描き看板は常に時間をかけず、正確な描写を求められてきた。

近年、屋外看板はカットティングシート文字やインクジェット出力で製作されており、時代に対応するためインクジェット出力での看板製作も取り扱うが、「昔ながらの看板屋の心意気を持ち、なるべく筆を持って文字を描く」ことを信念に、現在も手描き看板などの仕事を多く取り扱っている。

本人近影



〔平成29年地元静岡県で開催された技能グランプリ
に出場〕



〔藤枝市総合運動場の壁画。凸凹の壁面に手描きで描画した〕

19部門	こばやし まさひと	76歳	フラワーデザイナー 【有限会社 香風苑 TEL : 045-301-0685】	《名簿番号 135》
	小林 正仁			神奈川県推薦

○【日本文化と融合したフラワーデザイナー】

花束やアレンジにおける独特なスタイルや花以外の自然の物を融合させたデザイン創りに卓越している。その技法を活かしフラワーデザインに和のテイストを織り込んだ日本人に親しみやすいフラワー装飾を提案した。

また、花屋の技術向上を目指し、技能検定業務に長年従事し、生花店従業員ではなく、フラワーデザイナーとして活躍できるよう後進に技術を伝承するなど多岐にわたって活動している。

○【素材を生かした自分らしいデザインを】

20歳で家業の生花店に従事する。
通常業務に加え、すでに身近に既存のフラワーデザインはあったが、もっと好きな「自然」や「和」を取り入れた自分らしいデザインを考えるようになった。

いろいろな経験を積む中で確立していったデザインだが、常に自分らしさを前面に出し、唯一無二のデザインを心掛けている。
儚い生花を使用するデザインが主だが、ドライやアイアンを使用した大作であっても常に素材の醸し出す美しさや力強さを損なわないようにと考え、ひとつひとつの作品に取り組んでいる。

本人近影



〔デモンストレーション用のアレンジ作成作業〕



〔編む・結ぶ・巻くなどの技法を駆使した花束〕

20部門	くどう たく	47歳	データサイエンティスト	《名簿番号142》
	工藤 拓		【Google 合同会社 TEL : 03-6384-9000】	団体推薦

○【高速かつ高精度な日本語形態素解析ソフトウェアの開発】

自然言語処理分野で幅広い技能を持ち、日本語の形態素解析を高速かつ高精度に行うオープンソースのソフトウェア「MeCab」の開発。利用者が多く、独自の辞書を作成できるなど柔軟性にも優れ、日本語の自然言語処理において欠かせないツールとなっている。
深層学習を用いた言語モデルの開発にも長年取り組み、特定の言語に依存しないサブワードトークナイザ「SentencePiece」の開発を通じて「BERT」や「GPT」などの多言語大規模言語モデルの開発にも貢献した。

○【研究のみならず実応用で使えるソフトウェアを世に届ける】

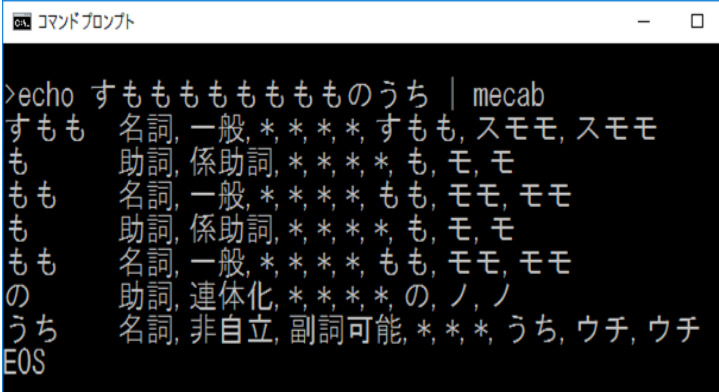
自然言語処理の分野では、実用的なツールの公開が研究や応用を進展させてきた歴史がある。
大学院在学中の指導教官の影響を強く受けたこともあり、研究成果だけではなく、その成果を実応用でも十分使えるオープンソースソフトウェアとして公開することを信条に取り組んできた。単純な解析精度だけではなく、高速性や使いやすさといった全体のバランスを考えながら設計を行っており、そのバランスの良さが拙作ソフトウェアの共通する特徴であり、自負する点でもある。

本人近影





【開発者のミーティングで議論している風景】



【MeCabによる日本語形態素解析の実行例】

21部門	こいずみ ひでお	82歳	その他の開発技術者 【株式会社ヨシダ TEL : 029 - 297-1005】	《名簿番号144》
	小泉 英雄			茨城県推薦

○【常に挑戦者であれ】

65年以上の長きに渡り機械・溶接加工・組立の全般に携わり、幅広い知識を有している。特に原子力業界において、放射性物質からの隔離に必要な製品として知られる「グローブボックス」の製造にかかる技能に卓越している。

氏が手がける製品は、高い密閉性と遮蔽性の両立を実現し、福島第一原発の現場に初めてのグローブボックスとして設置されるなど、高い評価を受け、廃炉作業の加速に大きく貢献している。また、それらの経験と技術は、若手、中堅技術者へと積極的に伝授している。

○【『信念をもって取り組む』『常に挑戦し続ける』『協力先には迷惑をかけない』】

日立製作所で培った製缶溶接技術および組み立て技術を、若い人へ伝承したいという思いで(株)ヨシダへ入社。技術的に最高レベルを必要とする福島第一原発廃炉関連の設備である鉛遮へい付グローブボックス、および高レベル放射性廃液のガラス溶融炉などの製作について、これまでに得た知識と経験をフル活用しつつ社員と一緒に完成。

- ①仕事には不可能はないという『信念をもって取り組む』
 - ②これまで習得してきた技術を活かしつつ『常に挑戦し続ける』
 - ③ともに繁栄していくグループとして『協力先には迷惑をかけない』
- このようにして得られた製作ノウハウこそが未来への財産。

本人近影



〔若い社員への製作ノウハウの指導風景〕



〔廃炉向け鉛遮へい付グローブボックス〕

22部門	さいとう まさお	75歳	ソフトウェア開発技術者 【株式会社アクセス・テクノロジー TEL0761-20-1144】	《名簿番号150》
	齋藤 正夫			団体推薦

○【パソコン用ソフトウェア「スクリーンリーダー」開発のパイオニア】

氏は、視覚障害の当事者として、パソコンが視覚障害者のコミュニケーション手段に有効であることに気付き、昭和58年よりデジタルデータを音声で読み上げるパソコン用ソフトウェアの開発に着手し、世界初の日本語「スクリーンリーダー」を開発した。その後も改良を重ね、視覚障害者がコミュニケーション手段としてパソコンを使うことができるようになり、視覚障害者の自立心を高め、社会参加の推進に寄与した。

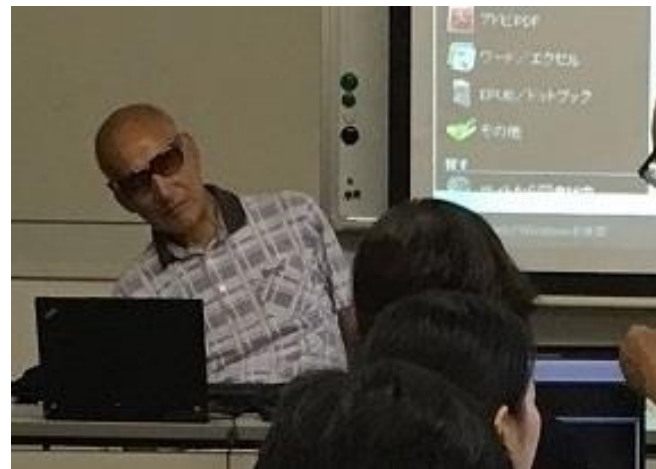
○【スクリーンリーダーによる視覚障害者の社会参加・社会進出の推進】

視覚障害者は一般の文字情報に直接アクセスすることが困難である。そこで、氏はパソコンが表示する内容をパソコンの合成音声で読み上げ、キーボードで文字入力できれば、一般の文字情報に直接アクセスできるようになると考え、パソコン用ソフトウェア「スクリーンリーダー」の開発に着手した。日本語入力はカナ漢字変換による同音異義語の選択ができるようにすることなど、様々な困難があったが、工夫を重ねてスクリーンリーダーを実用化することができた。この開発によって、視覚障害者のコミュニケーション手段は格段に向上し、社会参加・社会進出が可能となった。また、平成7年に会社を設立し、スクリーンリーダーの普及と共に、視覚障害者のパソコン利用のサポート、後続のソフトウェア開発者の育成、パソコン支援ボランティアの養成等にも尽力している。

本人近影



〔作業の様子〕



〔視覚障害者パソコン支援ボランティアの講師を務める様子〕